

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 9月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902595		
法人名	株式会社緑ケアライフサービス		
事業所名	グループホーム「殿」		
所在地	〒070-0020 旭川市東6条10丁目1-22 (電話) 0166-24-7277		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価確定日	平成21年9月17日

【情報提供票より】 (21年 8月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	21日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤	17人, 非常勤	1人, 常勤換算 11.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600 円			
その他の経費(月額)	1,800 円	暖房代 7,000 円(11~4月)		
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,260 円	

(4) 利用者の概要(8月 21日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.4歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)沼崎病院、(医社)稲積眼科歯科医院 他
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には食堂や理美容院などの商店が立ち並び、利便性に優れた環境に立地している。事業所内は、快適さを追及した造りで、居間は広範囲に亘る大きめの窓があり、程よい陽射しが心地よく差し込む快適空間で、利用者は一日のほとんどを職員となごやかに居間で過ごしている。また、管理栄養士の職員による栄養バランス良く、且つバラエティーに富んだ豊富なメニューの食事は好評で利用者の楽しみのひとつとなっている。地域との交流は、挨拶を交わすなどの日常的なつきあいはもちろんのこと、町内会への行事参加や、事業所内での行事に地域の方々の参加があるなど交流は深まっている。今後も更に地域の高齢者の暮らしに向けた広範な活動にも期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で改善課題として挙げられた、①理念の見直し、②災害時の地域への協力依頼、③定期的な家族への便りの発行などは、既に改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者は、自己評価の大切さを十分に理解し、スタッフミーティングを通じて自己評価と外部評価の意義と目的について理解してもらおう働きかけ、特別に時間を設け自己評価に全職員で取り組んでいる。全員の理解徹底に努め自己評価を意識し見直しに生かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 町内会の役員、家族、包括支援センター職員、職員などが参加し、概ね3か月に一度の会議を開催している。事業所の現状報告、行事、利用者の状況などで意見交換している。この会議を通して地域住民へ災害時の協力依頼も行うことができた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が来訪される時は、声を掛けて、希望や要望を聴取するように心掛けている。又、運営推進会議を通して家族の意見を聞き、要望などがあれば、ミーティングで話しあう速やかな対応に繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会清掃への参加、町内会の焼き肉パーティへの参加、事業所の行事(ひな祭り、敬老会、クリスマスなど)に参加していただいて交流を深めている。又、近くの幼稚園児、高校生の実習を受け入れて積極的交流を図っている。事業所への理解を深めてもらう機会としている。災害時の協力体制も既に築かれている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の母体組織独自の理念を見直し、地域密着型サービスとしての理念を再検討の上、事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、目によくつきやすい居間に掲示し、朝のミーティングには職員で唱和し共有し、初心を忘れないことを大切に理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内行事の焼き肉パーティーに利用者が参加し、事業所のヒナ祭・敬老会・クリスマスなどに地域の方々が参加するなど交流を深めている。また、幼稚園々児、高校生の来訪でのコミュニケーション実習などの受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングで話しあい、特別に時間を取って全職員で取り組んでいる。外部評価についても全職員に実施の意義の理解に努め振り返りの機会として改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員、家族、管理者、更に包括支援センターからの出席を得て、3～4か月の間隔で会議を実施している。事業所の運営状況の報告、利用者状況など、諸問題検討している。又、会議が地域の方々の協力体制構築にも役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に事業所の考え方や現場の実情を積極的に伝える機会を作り、助言、指導をいただいている。また、市の研修会に参加している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通信を発行して利用者の様子を家族に報告している。個別に状況報告とともに写真を送付しているが、更に文章を加えた報告も検討中である。	○	家族への連絡が必要ある利用者のみならず、全員の様子が家族に届くよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に家族に運営委員会報告をしている。又、家族からの要望があれば、ミーティングで検討し、その都度、報告・応答している。	○	重要事項説明書に公的苦情相談窓口が明記されていない。明記されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から両ユニットの職員の往来が盛んで、利用者とも顔馴染みであるが、職員の交代時などには混乱を避けるよう配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のカンファレンスで研修を実施し、又、外部研修にも積極的に参加し、報告書を提出してもらってミーティングで共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との見学交流を積極的に行っている。事業所での反省やサービスの質の向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所に体験入所を促し、雰囲気・職員に慣れてもらえるよう配慮をしている。又、事業所からの情報の提供、利用者の状況の収集に役立つよう工夫に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の持つ生活の知恵や技能を大切に、それらを生かせる場の提供を模索し教えていただき、一方的な関係ではなく共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、日常の関わりの中で希望や意向を把握し、経過シートに記録し、ミーティングで共有し、その人らしさを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの担当者を決め、利用者本人や家族の要望・希望を入れて話しあい、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは基本的には6か月毎であるが、利用者の状態の変化によっては、その都度、利用者、家族、医療関係者と話しあって計画を立て直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院の介助や、理美容院への外出・外食・ドライブなどの支援に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関や、今までのかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の場合や、終末期に向けての方針や同意書を現在検討作成中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの介助、衣類交換時などにカーテンを利用してプライバシーを尊重した支援を行っている。又、言葉かけにも配慮を欠かさないよう努力している。記録は事務室の奥に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝の時刻など、個々の利用者のペースを妨げることなく大切に、要望する在り方を尊重する支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の職員による食事は好評で、手作りのオヤツは心待ちにしている利用者も多い。準備、味付け、片づけなど能力に応じて職員と一緒に行われている。外食なども行っている。充実した食事支援で、食事が利用者の楽しみのひとつとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日間入浴機会を設けている、2日間を目標としているが希望があれば回数を増やすこともでき、無理強いすることなく一人ひとりのタイミングに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの好み、希望によって日々過ごせるよう支援し、貼り絵・パッチワーク・習字・洗濯物たたみ・茶碗拭きなどの役割を楽しめる過ごし方を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内ひと巡り散歩、スーパーでの買い物、外食など、戸外への外出など積極的に外出支援を行い、楽しんでもらえるよう心掛けた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はないが、夜間は防犯上施錠している。鍵のないケアの大切さを理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施していて、地域の方々へ災害時の協力要請依頼もすでに得られている。又、職員の救急救命講習は全員が受けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、即座に正確に記録され、補給を促したり、状況をみての支援がされている。利用者の状態によって刻み食の提供など状況に応じた支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いガラス窓で明るい光が十分に入り、コンパクトに造られている事業所だが、ゆったりとした生活感のある場になっている。利用者の作品が飾られ、「家」としての雰囲気作りに工夫が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドは備え付けだが、馴染みの家具、持ち物が運び込まれて、利用者一人ひとりが心持よく過ごせる空間が築かれている。		

※  は、重点項目。